

ぐんま教師塾の1年を振り返って

[高等学校 数学班]

群馬県立西邑楽高等学校 綾部 勝久
群馬県立藤岡中央高等学校 小坂橋 哲

1 班別研修に対する所感

小・中学校の授業を見て、既習の公式を教室に掲示すること、生徒の回答を復唱する態度などが参考になった。また、自分の授業をビデオで視聴することにより、自分の授業における改善点が明確になり、日々の実践に生かすことができた。

また、OECDによる学力調査の結果(図1)や学習指導要領の改訂など最近の数学教育をめぐる状況について班別に講義や協議が行われ、得るところが多かった。

数学的リテラシー全体における習熟度レベル別の生徒の割合(数字はパーセント)

	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	レベル5	レベル6
日本	8.6	16.3	22.4	23.6	16.1	8.2
香港	6.5	13.9	20.0	25.0	20.2	10.5
韓国	7.1	16.6	24.1	25.0	16.7	8.1
平均	13.2	21.1	23.7	19.1	10.6	4.0

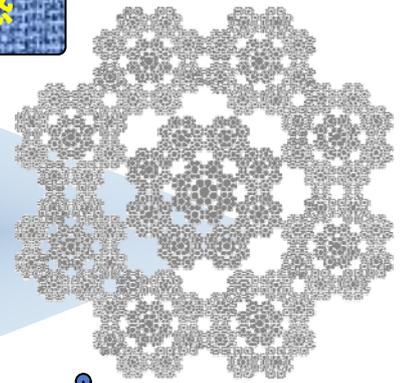
図1 OECDによる学力調査の結果

2 多彩な講師陣による講義や講話に対する所感

山口教育長の講義では「挑戦・魅力・本気」が掲げられ、目の覚める思いだった。また、早稲田ゼミの浅野理事長の講義は斬新だった。「今の教師は本当によく頑張っている。ただ、学校に組織論は通用しない。」と民間からの意見が述べられた。臨床心理士の加藤先生は「人にはお互いに違いがある。そのことが人間関係の前提になる。」と話していた。他にも、「人の中で人は育つ」の鹿嶋先生や東邦音楽大学の市山先生の講義など、参考になる講義が多かった。

3 授業参観協力校での授業参観に対する所感

高崎女子高校の戸塚教諭の授業は、スピード感のある授業だった。素早い回答へとつながる番号順に指名する発問や、途中計算は省き、グラフや立式の解説に時間をかけるという生徒のレベルにあわせた授業展開で、授業にスピード感を生んでいた。また、生徒にセンター試験を意識させる、様々な発問・別解等を示すなどの工夫がなされていて、大いに参考になった。



フラクタル図形

4 授業実践とその参観に対する所感

発問の指名方法を使い分けることで、授業にスピード感、リズム感が生まれた。また、問題文から図、図から立式へと導く力を育成する授業を心掛けた結果、教科を越えた様々な分野で物事を多面的に捉えられるようになり、生徒は自己探求と自己実現に努め始めた。また、やればできるという自信を持ち始めたことにより、基本的な学習態度がどの生徒にも定着した。

題材と提示の工夫を行った結果として、数学に興味を持ち、数学は楽しいと言う生徒が増えた。また、授業内容を発展させた問題を自ら作成し、その解法を考える生徒もあらわれた。

担当指導主事 高校教育研究グループ 大塚道明

